

1. 杜鰍(岡山県産)の成育度調査

まえがき

杜鰍増殖については大正時代尾道藩前において宮城県産種苗を対象に試験を行い事業化の域に至つたが、戦後他の地区の日本産杜鰍についての試験を行つたことはなかつた。

1960年4月岡山県水産試験場長尾野通氏から岡山県産杜鰍種苗の寄贈を受けたので、此種杜鰍種苗の繁殖に於ける増殖についての可否を調べることも、洗海利根河川の見地から意義あるものと考え、これが成長度調査を行うことにした。

放養場所

泊港北岸にある琉球造船株式会社の西端先に当り、泊前島町埋立工事の崩土砂供給地として潮壱により出来たU字型の入江で水深3~4m位で、安里川の影響を受けて餌料も相当丰饒するものと思われ、唯郡藩市の糞尿処理上近くであるため糞尿の流入のことも考へられるが、放養場所としては相々可と思われ又本所近くでもあり調査上便利な場所であつたので該地先に放養することにした。

該地先における水温比重は次のとおり

観 測 日 附	気 温	水 温	比 重
1960年 4月28日	24.6℃	24.0℃	1.0211
5月 7日	26.2	24.5	1.0236
7月18日	35.0	31.0	1.0160
8月24日	34.6	29.4	1.0210
9月15日	30.0	28.5	1.0220

調 査 方 法

杜鰍種苗附着器40枚を金網籠(直径60cm 高さ15cm)3個に収容水面下1.5mに懸垂、各附着器に番号票を附け、附着器各個について種苗数、重量、種苗中最大と思われるもの、殻長殻径等を毎月一回づつ測定したが、10月に至り籠から取出し針金に貫通(1.5cm 間隔)垂下の方法に取り替へ放養調査を続けた。

調 査 結 果

施設が適当でなかつたことと放養場所入江奥部の岸近くに接近して、海水の交流が少かつたこと等も考へられるが、次表の通り成長率が僅く附着器一つの重量232gでは放養当時の2倍弱の成育度であり、整つた施設で、最良条件を具備した場所で養育した後でなけれは判然したことは言えないが、次表のとおりでは企業として成立しないものと思われる。